

令和5年度 社会資本整備における国の施策及び予算に関する提案・要望

我が国への4つの貢献

- ◆食料安全保障の強化
- ◆国土強靱化

- ◆観光立国の実現
- ◆2050年カーボンニュートラルの実現

持続可能な社会・経済の形成

北海道の道路ネットワークは、多くの未整備区間が残されている

《高規格道路の開通率》

66%

※(旧名称)高規格幹線道路の延長より集計。令和4年3月31日時点

観光や物流、医療施設への緊急搬送等を支えるインフラの強化が不可欠

- 高規格道路等ネットワークの整備促進
- 除排雪に係る財政支援の充実・強化
- 地域特性に応じた魅力的なまちづくりの推進

防災・減災、国土強靱化

日本海溝・千島海溝沿い巨大地震による被害想定

《人的被害》

《建物被害》

約14万人 約12万棟

※「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の対策について」報告書(中央防災会議 令和4年3月)

災害に屈しない強靱な国土づくりをより強力に推進

- 災害に強いまちづくりの推進
- 流域治水の推進
- 災害に強い国土幹線ネットワークの機能確保

インフラメンテナンス

多くの施設で老朽化対策が遅れている

《対策が必要な橋梁数》

約3,200橋

※道路メンテナンス年報(令和3年9月)

予防保全への本格転換を図り、計画的な老朽化対策を推進

- 老朽化対策予算の確実な確保
- 長寿命化や維持管理に係る制度の創設や財政支援の充実・強化

ゼロカーボン北海道の実現

2050年カーボンニュートラルの実現に貢献

《温室効果ガス排出量の削減目標》

2030年までに▲48%

※2013年を基準年度とした、2030年までの目標値
※北海道地球温暖化対策推進計画(第3次)

ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組を推進

- 住宅・建築物の脱炭素化の推進
- 環境負荷の少ない交通・物流基盤の構築
- 吸収源対策と気候変動の適応に関する取組の推進

「北海道Society5.0」の実現

建設産業の高齢化が進行しており、将来的な担い手不足が懸念

《建設業就業者の55歳以上の割合》

45%

※総務省労働力調査より作成

デジタル技術活用による効率化・省力化の推進

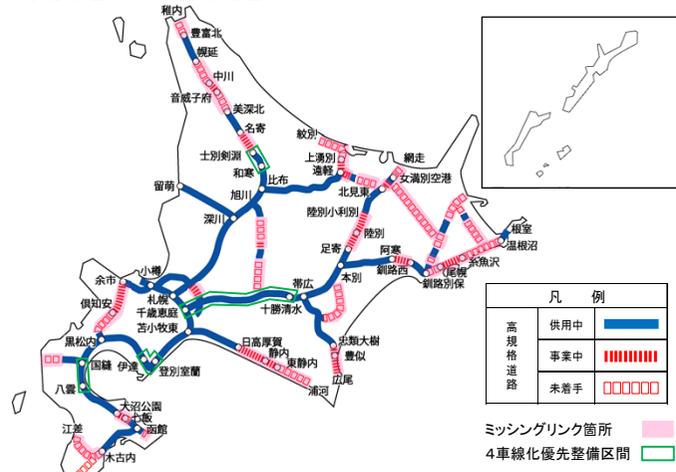
- 建設現場における新技術の活用による生産性の向上
- 道路除雪における技術開発の推進
- 施設管理や災害時におけるデジタル化の推進

○「5か年加速化対策」予算の十分な確保と、「5か年加速化対策」後も、継続的・安定的に国土強靱化の取組を進めていくこと

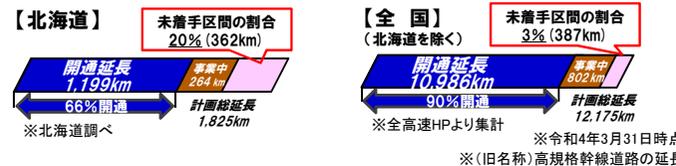


持続可能な社会・経済の形成

●高規格道路網の整備促進



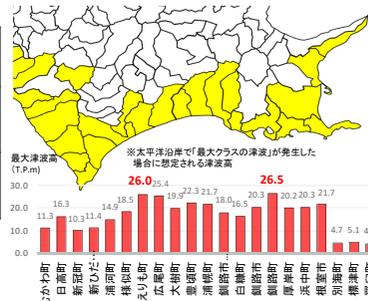
●北海道の(旧名称)高規格幹線道路の整備状況



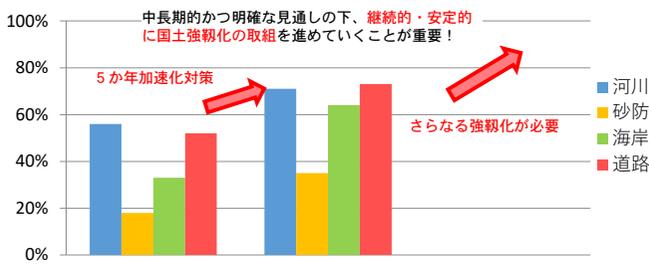
防災・減災、国土強靱化

●日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による被害想定

被害想定	日本海溝・千島海溝地震
人的被害	約14万人
建物被害	約12万棟

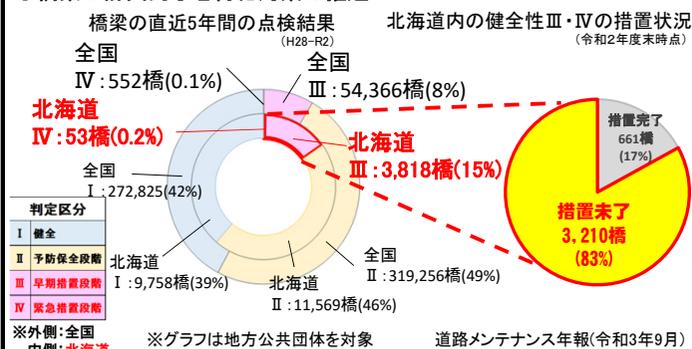


●「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に関する北海道の中長期目標の達成率



インフラメンテナンス

●橋梁の計画的な老朽化対策の推進



▼橋梁

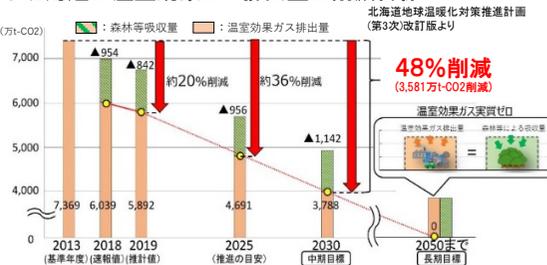


▼樋門



ゼロカーボン北海道の実現

●北海道の温室効果ガス排出量の削減目標



●北海道の民生(家庭)部門の二酸化炭素排出量 (2019年度)

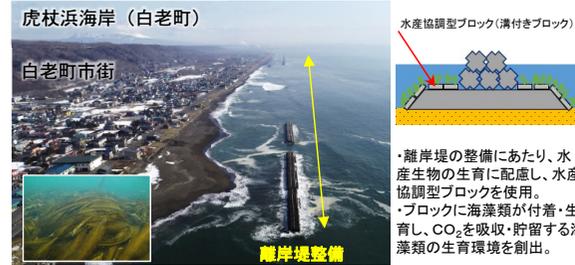


●公営住宅の脱炭素化の推進

ZEH水準を満たす断熱性能・省エネ性能を採用



●ブルーカーボンの拡大

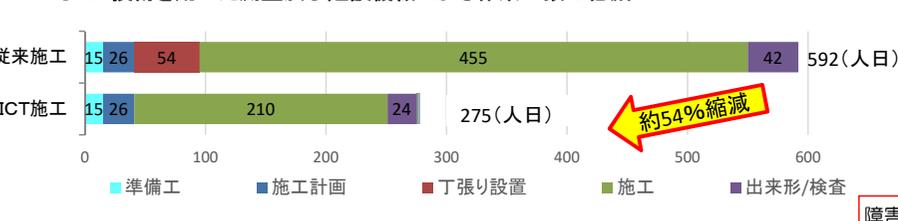


「北海道Society5.0」の実現

●建設業就業者の年齢構成



●ICT技術を用いた測量及び建設機械による作業工数の低減



●道路除雪におけるデジタル化の推進

